



## Cisco Unified SIP Proxy EXEC コマンド

---

- 「configure」
- 「copy configuration active」
- 「rollback」
- 「rollback factory-default」
- 「show license」
- 「show performance-data cps」
- 「show route table」
- 「show routes table」
- 「show status queue」
- 「show status sip」
- 「show trace options」
- 「trace disable」
- 「trace enable」
- 「trace level」

# configure

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

## configure

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始するには、このコマンドを使用します。コンフィギュレーション モードから、すべてのコンフィギュレーション サブモードを開始できます。**configure** コマンドを入力すると、システム プロンプトの表示が *router-name(cusp)>* から *router-name(cusp-config)>* に変わります。これは、ルータが Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードになっていることを示します。Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了して Cisco Unified SIP Proxy EXEC プロンプトに戻るには、**end** を入力します。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールにアクセスし、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始して、最終的に Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
Router# service-module integrated-service-engine 1/0 session

se-10-0-0-0> cusp
se-10-0-0-0(cusp)> configure
se-10-0-0-0(cusp-config)>
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cusp</b>	Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードを開始します。
<b>end</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>exit</b>	Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードまたはサブモードを終了して、上位モードに戻ります。

# copy configuration active

指定するリモート ファイル システムにアクティブ コンフィギュレーションをコピーするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **copy configuration active** コマンドの次の構文を使用します。

```
copy configuration active {ftp-url | pfs-url | tftp-url}
```

指定するリモート ファイル システムをアクティブ コンフィギュレーションにコピーするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **copy configuration active** コマンドの次の構文を使用します。

```
copy {ftp-url | pfs-url | tftp-url} configuration active
```

## 構文の説明

<i>ftp-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる FTP URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる FTP URL を指定します。
<i>pfs-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる Public File System (PFS) URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる PFS URL を指定します。PFS URL は、 <code>pfs:/cusp/config/file_path</code> という形式で指定する必要があります。
<i>tftp-url</i>	アクティブ コンフィギュレーションがコピーされる TFTP URL、またはアクティブ コンフィギュレーションにコピーされる TFTP URL を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

リモート ファイル システムをアクティブ コンフィギュレーションにコピーした場合 (**copy {*ftp-url* | *pfs-url* | *tftp-url*} configuration active** 構文を使用した場合)、システムをリブートする必要があります。

## 例

次の例では、アクティブ コンフィギュレーションをリモート ファイル システムにコピーする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> copy configuration active ftp://192.168.1.47/pub/cusp/mycfg
Address or name of remote host [192.168.1.47]?
Destination filename [pub/cusp/mycfg]?
Loading configuration to ftp://192.168.1.47/pub/cusp/mycfg: !
[OK - 777 bytes]
777 bytes transferred in 0.029 secs (26793 bytes/sec)
se-192-168-20-51(cusp)>
```

## ■ copy configuration active

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show configuration active</code>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。

# rollback

Cisco Unified SIP Proxy モジュールをリブートしたときに、直前にコミットされたコンフィギュレーションにロールバックするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **rollback** コマンドを使用します。

## rollback

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

モジュールのリブート後に有効になった、コミット済みのコンフィギュレーションを表示するには、**show configuration active** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールがリブートされたときに、直前にコミットされたコンフィギュレーションにシステムがロールバックされるように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp) > rollback
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rollback factory-default</b>	Cisco Unified SIP Proxy モジュールのリブート後に、システムを工場出荷時のデフォルト設定にロールバックします。
<b>show configuration active</b>	アクティブな Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションを表示します。

# rollback factory-default

Cisco Unified SIP Proxy モジュールをリブートしたときにシステムを工場出荷時のデフォルト設定にロールバックするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **rollback factory-default** コマンドを使用します。

## rollback factory-default

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

モジュールのリブート後に有効になった工場出荷時のデフォルト設定を表示するには、**show configuration factory-default** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、Cisco Unified SIP Proxy モジュールがリブートされたときに、システムが工場出荷時のデフォルト設定にロールバックされるように設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp)> rollback factory-default
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rollback</b>	Cisco Unified SIP Proxy モジュールをリブートしたときに、直前にコミットされたコンフィギュレーションにロールバックします。
<b>show configuration factory-default</b>	Cisco Unified SIP Proxy の工場出荷時のデフォルト設定を表示します。

# show license

初期インストール時に入力されたライセンス SKU、およびそのライセンスにより許可される Calls Per Second (CPS; 1 秒当たりのコール) 数を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show license** コマンドを使用します。

## show license

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例は、ライセンス FL-CUSP-10 により 10 CPS が許可されていることを示しています。

```
se-192-168-20-51(cusp)> show license
```

```
Installed license: FL-CUSP-10 (10 CPS)  
Exceeding this limit will result in dropped calls.
```

# show performance-data cps

Cisco Unified SIP Proxy が処理するコール数について、コール負荷などの有用なトラブルシューティング情報を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show performance-data cps** コマンドを使用します。

## show performance-data cps

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

バージョン	変更内容
1.1.4	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例は、Cisco Unified SIP Proxy パフォーマンス データの表示例です。

```
se-192-168-20-42(cusp)> show performance-data cps

Rolling average data-
Rolling averages are used for license enforcement and cannot be cleared.
Rolling average for last 5 minutes (cps): 10.0
Rolling values (last ten 30-second windows):
300 300 300 300 300 300 300 300 300 300

Performance data since last clear-
Average call rate (cps): 10.0
Peak call rate (cps): 10.07
Number of dropped calls: 0
Performance data was last cleared at: Tue Sep 15 15:27:05 EDT 2009
```



# show route table

指定された検索ルールに基づいて、特定のテーブルおよびキーの Cisco Unified SIP Proxy ルート情報を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show route table** コマンドを使用します。

**show route table** *table-name* **key** *key* **rule** [**exact** | **prefix** | **fixed** *number*]

## 構文の説明

<b>table</b> <i>table-name</i>	ルート テーブル名を指定します。
<b>key</b> <i>key</i>	ルート テーブルのキーを指定します。 <i>key</i> 引数にはワイルドカード (*) を使用できます。
<b>rule</b>	一致に使用するためのルール ( <b>exact</b> 、 <b>prefix</b> 、または <b>fixed</b> ) を指定します。
<b>exact</b>	指定されたテーブル内のキーの完全一致ルールを使用して検索を行います。
<b>prefix</b>	指定されたテーブル内のキーの最長プレフィクス一致ルールを使用して、検索を行います。
<b>fixed</b>	完全一致ではなく、文字固定数一致ルールを使用して、指定されたテーブル内のキーの検索を行います。
<i>number</i>	指定されたテーブル内でキーを一致させる、文字固定数。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.1.4	このコマンドが追加されました。

## 例

次の例は、プレフィクス一致ルールを使用した **show route table** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show route table t1 key 1800 rule prefix
key 1800 default-sip n1
```

次の例は、ルート テーブルに「key 555」が存在しない場合に完全一致ルールを使用した、**show route table** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show route table t1 key 555 rule exact
No matching route found.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるルート テーブル内のメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。

コマンド	説明
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>route table file</b>	ファイルからルート テーブルのルートをロードします。

# show routes table

特定のテーブルおよびキーに対して使用可能な複数の Cisco Unified SIP Proxy ルートを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show routes table** コマンドを使用します。

**show routes table** *table-name* **key** *key* [**max-size** *max-size*]

## 構文の説明

<b>table</b> <i>table-name</i>	ルート テーブル名を指定します。
<b>key</b> <i>key</i>	ルート テーブルのキーを指定します。 <i>key</i> 引数にはワイルドカード (*) を使用できます。
<b>max-size</b> <i>max-size</i>	返されるルートの最大数を指定します。デフォルトは 100 です。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 例

次の例は、**show routes table** コマンドの出力例です。

```
se-10.0.0.0(cusp)> show routes table t1 key * max-size 10
First 10 matches in the t1 table that match the key *:
key k3 default-sip n1
key k2 request-uri-host-port ahost n1
key k1 response 408
```

2 列目の出力は、ルート テーブルの検索キーです。3 列目はルートです。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるルート テーブル内のメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>route table file</b>	ファイルからルート テーブルのルートをロードします。

# show status queue

アクティブな SIP キューの統計情報を表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show status queue** コマンドを使用します。

## show status queue

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 例

次の例は、**show status queue** コマンドの出力例です。

```
se-192-168-20-51(cusp)> show status queue
```

Queue Name	Current Length	Active Threads
timer	0	0
radius	0	0
st-callback	0	0
request	0	0
message	0	0
response	0	0
xcl	0	0

```
se-192-168-20-51(cusp)>
```

表 3 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 3 show status queue のフィールドの説明

フィールド	説明
Queue Name	SIP キューの名前です。
Current Length	SIP キューの現在の長さです。
Active Threads	SIP キューのアクティブなスレッドの数です。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active sip network</b>	SIP ネットワーク インターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration active sip record-route</b>	SIP レコードルート コンフィギュレーションを表示します。
<b>show status sip</b>	Cisco Unified SIP Proxy のステータスを表示します。
<b>sip queue</b>	SIP キューを作成し、SIP キュー コンフィギュレーション モードを開始します。

# show status sip

Cisco Unified SIP Proxy のステータスを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show status sip** コマンドを使用します。

## show status sip

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、アクティブなクライアントおよびサーバ トランザクションに加え、TCP/TLS ライター スレッド情報を表示します。このコマンドは、SIP 関連のものではない可能性のあるキューを表示します。

### 例

次の例は、**show status sip** コマンドの出力例です。

```
se-192-168-20-51(cusp)> show status sip
```

```
SIP Stack Status
Client Transactions:    7575
Server Transactions:   3473
Total Threads for TCP/TLS Writer:    0
Min Threads for TCP/TLS Writer:      0
Active Threads for TCP/TLS Writer:   0
se-192-168-20-51(cusp)>
```

表 4 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 4 show status sip のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Transactions	アクティブなクライアント トランザクションの数です。
Server Transactions	アクティブなサーバ トランザクションの数です。
Total Threads for TCP/TLS Writer	TCP/TLS ライター スレッドの総数です。
Min Threads for TCP/TLS Writer	TCP/TLS ライター スレッドの最小数です。
Active Threads for TCP/TLS Writer	TCP/TLS ライターのアクティブなスレッドの数です。

## ■ show status sip

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show configuration active sip network</b>	SIP ネットワーク インターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
<b>show configuration active sip record-route</b>	SIP レコードルート コンフィギュレーションを表示します。
<b>show status queue</b>	現在アクティブな SIP キューの統計情報を表示します。

# show trace options

トレース ロギングがイネーブルまたはディセーブルのどちらになっているのかを表示するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **show trace options** コマンドを使用します。

## show trace options

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

このコマンドは設定済みのカテゴリまたはコンポーネントのレベルを表示します。

### 例

次の例は、ルート カテゴリおよびデバッグ レベルでトレースがイネーブルになっていることを示しています。

```
se-192-168-20-51(cusp)> show trace options
```

```
Trace is enabled.
```

Category	Level
root	debug

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。

# trace disable

トレースをディセーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace disable** コマンドを使用します。トレースをイネーブルにするには、**trace enable** コマンドを使用します。

## trace disable

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

トレースはイネーブルです。

### コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

#### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

### 使用上のガイドライン

**trace disable** コマンドを使用すると、**trace level** コマンドで **category** に **root** を指定してトレース レベルを **off** に設定した場合と同じ効果が得られます。

### 例

次の例では、トレースをディセーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51 (cusp) > trace disable
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace options</b>	トレースがイネーブルかディセーブルかを表示します。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。



# trace enable

トレースをイネーブルにするには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace enable** コマンドを使用します。トレースをディセーブルにするには、**trace disable** コマンドを使用します。

## trace enable

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

トレースはイネーブルです。

### コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

### コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

トレースをイネーブルにした後で、**trace level** コマンドを使用してトレース レベルを設定する必要があります。

### 例

次の例では、トレースをイネーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> trace enable
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace options</b>	トレースがイネーブルかディセーブルかを表示します。
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace level</b>	トレース レベルを設定します。

# trace level

トレース レベルを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace level** コマンドを使用します。トレース レベルをオフにするには、トレース レベルを **off** に設定します。

**trace level** [**debug** | **default** | **error** | **fatal** | **info** | **off** | **warn**] **category/component**  
*category/component-name*

## 構文の説明

<b>category/component</b>	<i>category/component-name</i> サブシステムからのメッセージだけをログに記録します。コンポーネントは、基本的にカテゴリの定義済みリストです。
<i>category/component-name</i>	メッセージがログに記録されるサブシステムです。
<b>debug</b>	重大度がデバッグまたはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>default</b>	親のトレース レベルを使用します。
<b>error</b>	重大度がエラーまたはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>fatal</b>	重大度が重大またはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>info</b>	重大度が情報またはそれ以上のメッセージをログに記録します。
<b>off</b>	メッセージをログに記録しません。
<b>warn</b>	重大度が警告またはそれ以上のメッセージをログに記録します。

## コマンドデフォルト

トレース レベルはデバッグ カテゴリ ルートです。

## コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy EXEC (cusp)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。
1.1.4	このコマンドが変更されました。

## 使用上のガイドライン

**trace enable** コマンドを使用してトレースがイネーブルになっている場合に、トレース レベルを設定できます。リストの順序は、ログが最も多いものから少ないものになります。トレース レベルは次のとおりです。

- debug
- info
- warning
- error
- fatal

トレース レベルを **off** に設定すると、**category** が root である場合に **trace disable** コマンドを使用した場合と同じ効果が得られます。トレース レベルを **debug** に設定すると、パフォーマンスに大きな影響を与えます。

カテゴリまたはコンポーネントは、特定の機能に関するメッセージをログに記録する場合にだけ使用できます。コンポーネントは基本的にカテゴリの定義済みリストであるため、コンポーネント オプションを使用してデバッグすることを推奨します。トレース レベル設定は、永続的なものではなく、リブート後にリセットされます。現在使用できるカテゴリはルートだけです。

## 例

次の例では、ルート カテゴリでトレースをイネーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> trace level debug category root
```

次の例では、ルーティング コンポーネントでのトレースをイネーブルにする方法を示します。

```
se-192-168-20-51(cusp)> trace level debug component routing
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show trace options</b>	トレースがイネーブルかディセーブルかを表示します。
<b>trace disable</b>	トレースをディセーブルにします。
<b>trace enable</b>	トレースをイネーブルにします。

■ trace level